

参考資料5

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

令和5年度 第1回がん対策推進委員会
令和5年11月15日

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

事業の概要

アンケートに回答した事業所のうち、支援を希望した50事業所に対し、保健師による支援を実施。
⇒従業員のがん検診受診率の向上を目指すとともに、仕事と治療の両立支援を事業所において実施できるよう相談支援を実施。また、就労環境整備支援事業を紹介。

実施期間

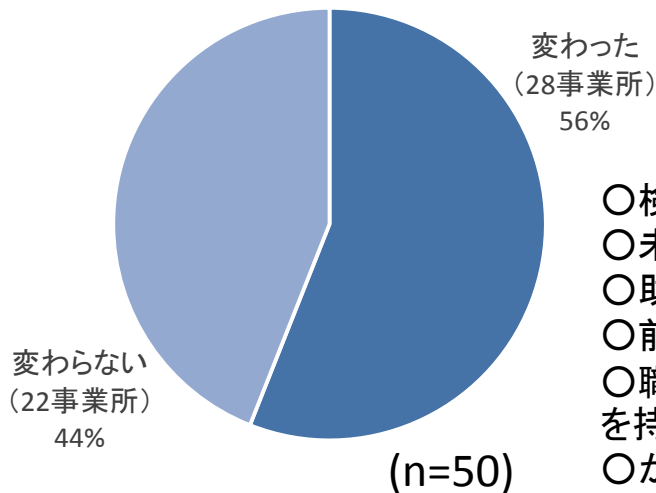
- 1回目 令和4年10月12日～令和5年1月18日
- 2回目 令和5年3月1日～3月31日

主な意見

- ・検診受診の必要性が理解でき、検診の受診が進んだ。
- ・年齢に関係なく全体への意識を高める必要があると感じた。
- ・事業所内が常に慌しく、従業員の健康について考える必要性を感じていたものの対応できていなかったが、就業規則を整備するよい機会となった。
- ・これまでがんになった人はいなかったが、今後の体制整備に向けて問題点の把握ができ、意識が変わった。

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

1. 1回目の支援以降、意識は変わったか

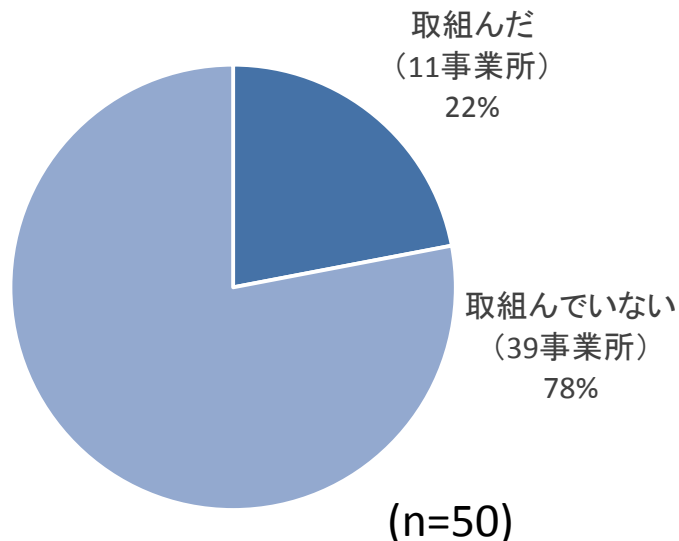


どのような点が変わったか (一部抜粋)

- 検診受診の必要性が理解でき、検診の受診が進んだ。
- 未受診者を出さないようにしたい。
- 助成金を使ってがん検診の費用を一部負担して検診を促すようにしたい。
- 前年度よりがん検診を受診したほうがよいという意識はあがった。
- 職員に周知しないといけないと思い、職員会議で話をした。若い人も興味を持って聞いていた。
- がんに関する動画を社員全員に見るよう促した。
- がんと聞くと、死というイメージが強かったが、早期発見すると治ることがわかった。
- がんになる人が出る前にルールづくりが大切だと感じた。
- 健康については気を付けている。
- 年齢に関係なく全体への意識を高める必要があると感じた。
- 若い人がなかなか入社してくれない為、今いる職員の健康を守ることが重要と再認識した。
- 職員に周知しなければと思い職員会議で話をした。
- 自分の中でしなきゃいけないな～という意識は芽生えたが、行動には至っていない。
- 従業員健康管理がいかに大切かということは理解できた。しかし、現状を変更させることは難しいと感じている。

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

2. 1回目の支援以降、がん検診受診やがん治療との両立で何か取組んだか



【令和4年度の取組】

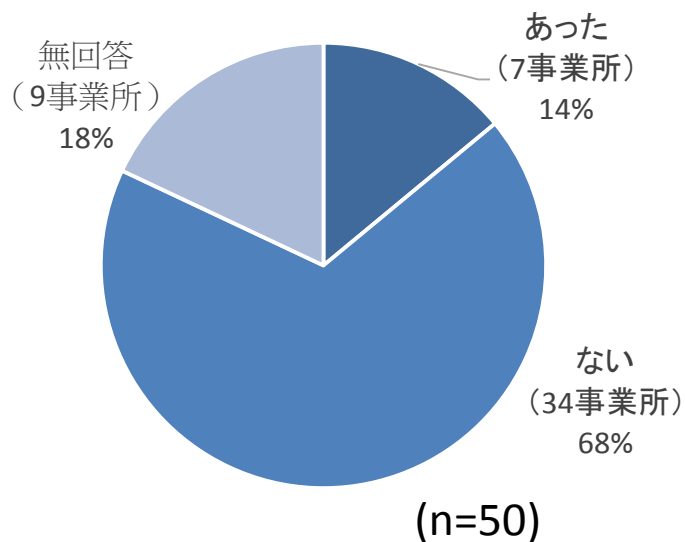
- ・啓発活動を行った。
- ・朝礼で話した。
- ・事業所の方針としてがん検診の受診を勧めている旨を話した。
- ・保健師から勧めてもらった動画を見た。

【取組めなかった理由】

- ・時間がなかった
 - ・予算がなかった。
 - ・何をどうすればいいかわからなかった。
 - ・がん検診は事業所の義務ではないのでスタッフには受診勧奨など声を掛けにくい。
 - ・健康管理については個人に任せている部分が多い。
 - ・今までも受診勧奨や治療を継続できるよう時短や休暇で対応してきたので、新たな取り組みはしていない。
 - ・健康診断自体実施していないのでがん検診までは取り組んでいない。
 - ・健診はみんな受診しているし、がんにかかった人もいないので問題ないと思っている。
- 健診と一緒にがん検診をすべて一緒に受けられる病院が事業所の近くになく、困っている。
- ・法人として対策を考えることになると思うので、事業所単独での対策実施は難しい。

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

3. 取組に対して社内で反応はあったか



【具体的な反応】

- ・検診受診の必要性について話し合った。
- ・年度内に両立支援の取組について理事会で決定予定。
- ・検診の受診勧奨をしている。
- ・顧問社労士に相談して対策を進めている。
- ・健診については意識が高い。
- ・現在オプションとして自己負担で受けられているがん検診を将来的には会社負担にしていきたいと思っている。
- ・取り組みとして行ったことはなかったが、健診の時に「受けた方がよいのかな」というような雰囲気は感じることができた
- ・自身の体験談を従業員に話したところ「やっぱり受けなあかん」というような声はあった。

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

4. 支援者（保健師）の評価

【事業所の状況】

- ・コロナの影響を受け、その後の後始末に追われていたり、工場では中国から物資が届かず経営できない所がある等、事業所にとっては大変な時期の支援であった。
- ・事業主が話を聞いてくれる事業所が多くあった。
- ・がん検診をどうしたら受けられるか、どこで受けられるかを知らない事業所が多い。
- ・相談窓口を知らない事業所が多い。

【保健師の評価】

- ・検診を受ける人が増えたり、事業主の反応を見ていると介入の効果はあったと思う。小規模事業所への支援の必要性を感じた。
- ・法律が変わって、両立支援についても後々制度化されることが想定されるため、タイミングとしてはよかったと思う。
- ・今後も支援は必要だと思う。
- ・事業所向けのセミナーがあり、税金のこと等のテーマがあるが、健康経営やがんのことがあってもよいと思う。

がん患者支援に関する相談・指導 及びがん検診受診啓発

〔結果のまとめ〕

○産業保健分野に精通した保健師の介入により、以下の点において効果があった。

- ・がん検診等のがん対策や従業員の健康について事業主が考える機会となった。
- ・がん検診やがん対策の必要性について、事業主が従業員に周知啓発することにより、従業員ががん対策について考える機会ができた。

⇒ **がん検診等のがん対策の必要性について、事業主へ丁寧に伝える必要がある。**

○意識の変化があった事業所数に対して、取組につながった事業所の数が少ない。

⇒ **事業所内ではがん対策の必要性を広める取組に着手しやすくなるようなリーフレット等の活用が必要である。**

また、事業所にとって必要な取組を推進するために気軽に相談でき、支援してもらえる窓口を明確にする必要がある。